

男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会通信

事務局 秋田県立支援学校天王みどり学園 発行平成30年7月25日 No.15

H30 第1回男鹿潟上南秋地区特別支援連携協議会

1 全体会

(1) 事務局の報告

地域の6市町村では、その全てにおいて、地元開催の連携協議会を実施し、さらに、関係機関で情報交換をしながら満5歳健康相談会やことばの検査など、早期からの接続期を支える取り組みを着実に進めています。さらに、障害理解の出前授業は、地域の学校の取組の状況等を受け、新たに実施する小・中学校が、各地で年々増え続けています。

今回の連携協議会では、6市町村が一同に集まり、それぞれの取組の在り方について情報交換をしました。

(2) 早期からの相談・支援を目指して ～潟上市の「わくわくタイム」と「ことばの検査」について～

潟上市教育委員会学校教育課 指導主事 富士盛泰子 氏

① 幼児通級教室（わくわくタイム）

昨年度から実施している幼児通級教室（わくわくタイム）。具体的な支援の内容や、これまでの取組を振り返りながら、成果について紹介してくれました。

- ・年中児親子相談会と年長児のわくわくタイムの流れが、ここ2年でシステムとしてできてきた。今後は、1年生になった子どもの状況を確認し、適切な支援につなげていく道筋をつくっていききたい。
- ・年中児親子相談会から、わくわくタイム、ことばの検査の様子など、ほぼ同じスタッフが関われることは意義が大きい。保護者には、早期に支援を受けることのメリットを理解してもらい、早くに相談して将来を見据えられる安心感を与えていきたい。

② ことばの検査

本地域では、ことばの検査を一番はじめにスタートさせた潟上市です。具体的な検査の実施内容、事後のカンファレンスの持ち方などについて、大切にしたいポイントを詳しく紹介していただきました。

- ・事後のカンファレンスでは、普段の様子と合わせ、担任らとともに、多面的につまりきの背景や支援方法、今後の方向性等について探ることが目的である。
- ・ことばの検査は、実態把握のための材料の一つとして捉える。保護者への伝え方については、今後の支援の方策を共に探っていくためのものとし、保護者に誤解を与えないように注意が必要である。



(3) 通級指導教室開設について

五城目町立五城目小学校 通級指導教室担当 児玉 信子 氏

今年度、五城目小学校に通級指導教室が開設されました。これで、男鹿市、潟上市、南秋地区と通級が設置されたこととなります。今回は、通級指導教室について、現在までの取り組みの状況について紹介してくれました。通級指導教室の具体的な取組については、日頃、あまり耳にしたことのない参加者も多く貴重な機会となりました。

<対象>：LD、ADHD等。南秋地区の児童を主な対象としている。
<内容>：障害による学習上又は生活上の困難を改善し、又は克服することを目的とする指導。特に必要のあるときは、障害の状態に応じて各教科を取り扱う。

記録などを効果的に活用し、家庭と学級担任と通級指導教室とで情報交換を大切にしながら指導していきたいと力強く語ってくれました。



2 市町村ごとの分科会から

市町村ごとの分科会では、昨年度の主な成果と課題や、今年度の特徴的な取り組みなどについて、情報交換をしました。先の2名の方の発表も受け、活発な意見交換がされました。

(1) 男鹿市

- ・福祉事務所から、ケース検討会の開催について（会のメンバーや会の持ち方等）情報提供があった。家庭の状況を知ることが、園や学校における支援の検討時に鍵となるケースも増えてきているので、貴重な情報であった。
- ・保護者の子ども理解が園中にはなかなか深まらないケースであっても、就学後のことばの検査などをきっかけに深まっていく例もある。ことばの検査の実施を事前に保護者に伝えたことで、検査前後の相談が増えた。園からの情報も基に、対応を工夫できるようになってきた。
- ・子どものことで何か気になることがあったときの相談できる場所が周知されている。男鹿っ子ネウボラがシステムとして機能し始めているように感じる。
- ・保育園の職員としても、通級指導教室について知ることができて良かった。場合によっては、保護者へも情報提供ができる。



(2) 潟上市

- ・年中児親子相談会で話題にあがったことを伝えようとしても、「周囲と違う」と見られることへの抵抗感から受け入れられない保護者もいる。保護者にうまく伝えられずに苦慮するケースもある。
- ・中学校で保護者対応をしていて感じるのは、相談する場があり、相談した経験があるというのは保護者にとっても良いことだということ。年中児親子相談会ができたことは、保護者にとっても相談することの良さに触れることのできる貴重な機会である。
- ・高等学校には、いろいろな地区から生徒が入ってくる。発達障害のある生徒のケースで、入学前に関係機関同士の連携がとれていると、保護者から「中学校での支援を引き続き継続してほしい」と要望があるケースもあり、学校としても動きやすかった。

(3) 五城目町

- ・昨年度、就学支援シートの見直しをした。小学校としては、支援シートが改善されチェックシートが加わったことで、子どもの特徴をつかみやすくなったように思う。また、こども園としては、チェック項目にしたことで、保護者も書きやすくなったように感じる。
- ・教育委員会から、園や小学校からの声も参考にしながら、就学支援シートの活用についても含めた就学までの流れを記したお知らせを、5歳児の保護者へ配布する。
- ・満5歳健康診査に、教育委員会も立ち会う予定である。健康福祉課に相談に行く保護者も多いので、学校関係の相談についても一緒に受けることができたらいいと考えている。
- ・接続期をスムーズに移行するためにも、通級指導教室担当が、就学前に、直に幼児と触れ合う機会を設け、定期的にもこども園と連携をとるような体制も効果的だと思う。

(4) 南秋部会（井川町、八郎潟町、大潟村）

- ・就学支援シートを、他地区の情報を得ながら、より使いやすいものに改良していきたい。
- ・義務教育学校では、通常級に支援員を4名配置している。支援員配置校研修などを活用する。就学指導委員会からの情報を個人カルテとして活用してきたが、今年度から個別の指導計画に統一する予定である。
- ・満5歳健康相談の周知を、積極的に働きかけていく。1年生以降の連携、情報交換の場があってもいいと思う。
- ・出前授業を中学校でも実施したい。
- ・今年度、11月に、保健センターと教育委員会が協力し、満5歳児相談会を実施する。
- ・就学支援シートは、保護者からの記述が少ない。保護者が記述しやすい工夫を検討する。
- ・小1児童、園からの働きかけがあり、事前にうまく対応できたケースがあった。園と小学校の連携を充実させたい。

3 今後の本協議会について

最近、特性だけでなく家庭環境が複雑に影響しているケースについて話題にあがることが増えてきました。分科会の中には、今後は、支援に苦慮しているケースなどについても取り上げて検討会をするのもいいのではという意見も出されていました。

就学支援シート（ファイル）の活用について話題が多く出されていました。今後、さらに、支援の縦系と横系を強力にしっかりとつむぐためには、関係機関が顔を合わせ、さらに個別の指導計画、個別の支援計画につなげ、個々の役割を確認しながら支援策を検討していくという流れについても、活発に意見交換ができればいいと考えています。

また、障害理解教育についても話題に出ておりました。潟上市では、放課後支援員の職員を対象に障害理解の出前授業をしました。秋には地域の小学校のPTAなどでも実施する予定です。児童生徒だけでなく、地域のいろいろな方を対象に、障害理解の取組を連携して進めていけたらと考えています。共生社会の形成が強く言われてきていますが、そのためには、まずは障害について知ることが第1歩だと思います。今後も、各関係機関とも連携を図りながら、地域の障害理解につながる話し合いも深めていけたらと思います。